 	8上業局等	等門学校	開講年度 令和06年	年度 (2024年度)	授業科目	国語Ⅱ				
科目基础					•					
科目番号		0031		科目区分	一般 / 必	修				
授業形態		授業		単位の種別と	単位数 履修単位	: 2				
開設学科		機械工		対象学年	2					
開設期		通年		週時間数	2					
教科書/教材) 参考書			: 『精選言語文化』(東京書籍), 考書 : 『精選言語文化学習課題ノ 字とことば 常用漢字アルファ』	ノート』(東京書籍),	『精選現代の国語学	な近代文学選 増補版』(アイブレーン と習課題ノート』(東京書籍),『五				
担当教員		久留原	 昌宏							
到達目標	 票	•								
古典からこ	- 近代文学ま ⁻ と共に,文:	での様々な 学の持つ素	日本語の文章を学習することに。 晴らしさや,文学を学ぶ意義にご	kり, 日本語で書かれた いて理解することがて	文章の読解力,お。 ごきる.	はび日本語による的確な表現能力を身				
ルーブ!	ノック		田相的も2回去し ベルの日内	無法がよいないま		ナがきしがよる日ウ				
			理想的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安				
評価項目:	1		漢字・語句の応用力を身に , 古典から近代文学までの な文章の読解ができる.	応用的 , 古典から近 な文章の読解	基礎力を身に付け 代文学までの基本的 ができる.	漢字・語句の基礎力が身に付かず , 古典から近代文学までの基本的 な文章の読解ができない.				
評価項目2	2		エッセイ、感想文, スピー応用的な表現ができる.	チなど エッセイ, 感 基本的な表現	想文,スピーチなと ができる.	基本的な表現ができない.				
評価項目	3		応用的な文学の素晴らしさ について理解することがで	, 意義 基本的な文学 きる. について理解	の素晴らしさ,意義 することができる.	基本的な文学の素晴らしさ, 意義 について理解することができない				
学科の発	到達目標項	 頁目との	要係							
概要		解力お。	よび日本語による表現能力の向」	国語 I Bの学習内容を受け,さらに日本語を正確に理解し,的確に表現する能力を養う.そして高等専門等の学生として,また現代に生きる日本人として必要な日本語の基礎知識の習得と,日本語で書かれた文章の日本語による表現能力の向上を目指すことを目標とする.						
授業の進	め方・方法	・授業(は講義・演習形式で行う. 講義中	D内容は学習・教育到達目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する. 構義・演習形式で行う、講義中は集中して聴講する. 一						
注意点		ル〈発を〈〈くめ〈と科の学表行単あレら備・で試業等わ位らポれ考出あ	を得条件〉与えられた課題レポート・ノート等をすべて提出し,学業成績で60点以上を取得すること. かじめ要求される基礎知識の範囲〉本教科は,国語IAや国語IBの学習が基礎となる教科である. - ト等) 理解を助けるために、学習課題ノート・プリントを用いる。また,外部コンクールに応募するため - デーマによるエッセイ,および自由選択による読書体験記を執筆させ,提出させる. - 授業中は学習に集中し,内容に対して積極的に取り組むこと.疑問が生じたら,その授業後直ちに質問する - 大学・大学・大学・大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、							
	属性・履何									
☑ アクテ	-ィブラーニ		TOT THE	☑ 遠隔授業類	对応	□ 実務経験のある教員による授業				
		ンク	☑ ICT 利用	図 透開技業/						
122441-		ンク	図 ICT 利用	四						
授 美計[画	<u> </u>	☑ ICT 利用	図 透開1又未2						
投 集計[画	週	授業内容	凶 、	週ごとの到達目	蓝				
前期	国 1stQ	1	1	の説明	1. 表現するたこと で表現するたこと で表別で短いた。 ま学いたる、特表学のが 短いたので 短いたので 短いたので 短いたので 短いたので 短いたので 短いたので 知いたので 知いたので はいます はいます にいます にいます にいます にいます にいます にいます にいます に	計論などを行い,自分の意見を公の言葉ができる. た踏まえ、相手に説得力をもって自分を伝える感想文・小論文等を書くこと どを創作することにより、自らの心情を することができる. アルファ」に基づき、漢字小テストを年 し、社会人として必要な漢字・語彙力 がな表現に使われる漢字・語句について きと用法を習得している. 長現上の特色を理解することができる. による。 による。 にある。 になる。 となる。 となる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 となる。 になる。 になる。 になる。 となる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 、 になる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 とな。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 とな。				
		週	授業内容 授業内容 本授業の概容および学習内容 評論 今ここにある無数の未知	の説明 知(石川直樹)①	1. 表現するたことで表現するたことで表現するたことで表現である。 ままずにあるかける。 おままで短いた。 おままで短いた。 おままで短いた。 おままで短いた。 おままで短いた。 おままなりでは、 はいままが、 はいままが、 はいいがいままが、 はいいがいないがいますが、 はいいがいないがいないがいないがいますが、 はいいがいないがいないがいないがいないがいないがいないがいますが、 はいいがいないないがいますが、 はいままが、 はいいがいないないないないがいないないないないないないないないないないないないな	対論などを行い、自分の意見を公の言葉ができる。 た踏まえ、相手に説得力をもって自分を伝える感想文・小論文等を書くこと ごを創作することにより、自らの心情を することができる。 アルファ」に基づき、漢字小テストを年 し、社会人として必要な漢字・語彙力 引な表現に使われる漢字・語句について きと用法を習得している。 長現上の特の意図を理解し、論理の展開を できる。 こ、各段落、および全体の要旨について できる。				
		週 1週	授業内容 本授業の概容および学習内容の評論 今ここにある無数の未知	の説明 知(石川直樹)① 和(石川直樹)②	1. スピー ままで とこと で 表現する たこと が で 短歌 し い きる い きる い きる い で 短歌 し 日	対論などを行い、自分の意見を公の言葉ができる。 とを踏まえ、相手に説得力をもって自分を伝える感想文・小論文等を書くこと どを創作することにより、自らの心情をすることができる。 プレファ」に基づき、漢字小テストを年し、社会人として必要な漢字・語彙力 が表現に使われる漢字・語句についてきと用法を習得している。 きと用法を習得している。 きと用法を習得している。 できる。 、作者の意図を理解し、論理の展開をできる。 、各段落、および全体の要旨についてできる。 のと同じ。				
		週	授業内容 授業内容 本授業の概容および学習内容 評論 今ここにある無数の未知	の説明 知(石川直樹)① 和(石川直樹)②	1. 表字にという。 ス現すした。 ス現すした。 大き言でを放し、 を記し、 をい	対論などを行い、自分の意見を公の言葉ができる。 とを踏まえ、相手に説得力をもって自分を伝える感想文・小論文等を書くこと どを創作することにより、自らの心情を することができる。 アルファ」に基づき、漢字小テストを年 し、社会人として必要な漢字・語句について きと用法を習得している。 ほ別上の特色を理解することができる。 こ、作者の意図を理解し、論理の展開を できる。 こ、各段落、および全体の要旨について できる。 こ、各段落、および全体の要旨について できる。 こ、各段落、および全体の要旨について できる。 こ、各日じ。				
		週 1週 2週 3週	授業内容 本授業の概容および学習内容の 評論 今ここにある無数の未知 評論 今ここにある無数の未知	の説明 知(石川直樹)① 和(石川直樹)②	1. 表現 で とこと が で とこと が で 短 で 短 で 短 で 短 で 短 で 短 で 短 で 短 で 短 で	対論などを行い、自分の意見を公の言葉ができる。 とを踏まえ、相手に説得力をもって自分を伝える感想文・小論文等を書くこと を伝える感想文・小論文等を書くこと で創作することにより、自らの心情を することができる。 アルファ」に基づき、漢字小テストを年 し、社会人として必要な漢字・語句について きと用法を習得している。 きと用法を習得している。 は、一番の意図を理解し、論理の展開を できる。 こ、各段落、および全体の要旨について できる。 と同じ。 3と同じ。 3と同じ。 2四内容について理解している。 古文作品を適切な現代語に訳し、登場 青について理解している。 古文作品の文学史的価値を理解している。 古文作品の文学史的価値を理解してい				
		週 1週 2週 3週 4週	授業内容 本授業の概容および学習内容の評論 今ここにある無数の未知 評論 今ここにある無数の未知 評論 今ここにある無数の未知 計論 今ここにある無数の未知	の説明 知(石川直樹)① 和(石川直樹)②	1. 表現すとことには、	計論などを行い、自分の意見を公の言葉ができる。 とを踏まえ、相手に説得力をもって自分を伝える感想文・小論文等を書くことでを創作することにより、自らの心情をすることができる。 アルファ」に基づき、漢字小テストを年し、社会人として必要な漢字・語彙力的な表現に使われる漢字・語句についてきと用法を習得している。 は、各段を理解することができる。 に、作者の意図を理解し、論理の展開をできる。 に、きる段落、および全体の要旨についてできる。 と同じ。 おと同じ。				

1511-4と周し			8週	前期中間試験	これまで学習した内容を説明することができる。
10週 小説 城の崎にて (志賀直哉) ② 上記1~4, 12~15と同じ. 11週 小説 城の崎にて (志賀直哉) ③ 上記1~4, 12~15と同じ. 12回 小説 城の崎にて (志賀直哉) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 13週 小説 城の崎にて (志賀直哉) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 13週 小説 城の崎にて (志賀直哉) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 14週 詩歌 サーカス (中原中也) ① 日本の文学的な表現に使われる漢字・語句について、古書の名とができる。 14週 詩歌 サーカス (中原中也) ② 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 詩歌 サーカス (中原中也) ② 上記1~4, 16~19と同じ. 15週 詩歌 サーカス (中原中也) ② 上記1~4, 16~19と同じ. 15週 前歌 財ーカス (中原中也) ② 上記1~4, 16~19と同じ. 15週 前歌 世ーカス (中原中也) ② 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 前歌 世ーカス (中原中也) ② 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 前歌 世ーカス (中原中也) ② 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 前歌 田景 (太宰治) ③ 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 小説 富嶽百景 (太宰治) ③ 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 小説 富嶽百景 (太宰治) ③ 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑥ 上記1~4, 12~15と同じ. 15週 古文 奥の細道 平泉① 上記1~4, 9~11と同じ. 15回 古文 奥の細道 平泉② 上記1~4, 9~11と同じ. 15回 古文 奥の細道 平泉② 上記1~4, 9~11と同じ. 15回 評論 白 (原研哉) ⑥ 上記1~4, 5~8と同じ. 11週 評論 白 (原研哉) ⑥ 上記1~4, 5~8と同じ. 12回 評述 白 (原研哉) ⑥ 日 (原研哉) ⑥ 日 (日 (和 (日 (本 (日 (日 (日 (日 (日 (日 (日 (田			9週		12. 小説の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。 13. 小説のあらすじを把握し、登場人物の心情・行動を理解することができる。 14. 小説について、鑑賞能力を養い、自分の感想を文章にまとめることができる。 15. 小説について、文学史的知識を身につけ、作品が
11週			10调	小説 城の崎にて(志賀直哉)②	
12週 小説 城の崎にて(志賀直哉)⑥					,
2ndQ 13週 小説 城の崎にて(志賀直哉)⑤			12週		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
16. 詩歌の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確に読み書きと用法を習得している。		2ndQ		小説 城の崎にて(志賀直哉)⑤	上記1~4, 12~15 と同じ.
15週 詩歌 サーカス (中原中也) ②			14週	詩歌 サーカス(中原中也)①	16. 詩歌の文学的な表現に使われる漢字・語句について,正確な読み書きと用法を習得している. 17. 詩歌について,作者の意図を理解し,表現技巧を把握することができる. 18. 詩歌について,鑑賞能力を養い,自分の感想を文章にまとめることができる. 19. 詩歌について,文学史的知識を身につけ,作品が
16週 1週 前期末試験の反省			15週	詩歌 サーカス(中原中也)②	
1回 小説 富嶽百景 (太宰治) ①				272. 2 757. (132.1 27. 0	
3週 小説 富嶽百景 (太宰治) ③ 上記1~4, 12~15と同じ. 4週 小説 富嶽百景 (太宰治) ④ 上記1~4, 12~15と同じ. 5週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 5週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤ 上記1~4, 12~15と同じ. 6週 古文 奥の細道 平泉① 上記1~4, 9~11と同じ. 7週 古文 奥の細道 平泉② 上記1~4, 9~11と同じ. 8週 後期中間試験 の反省 上記1~4, 5~8と同じ. 9週 評論 白 (原研哉) ① 上記1~4, 5~8と同じ. 10週 評論 白 (原研哉) ② 上記1~4, 5~8と同じ. 11週 評論 白 (原研哉) ③ 上記1~4, 5~8と同じ. 12週 評論 白 (原研哉) ④ 上記1~4, 5~8と同じ. 12週 評論 白 (原研哉) ④ 上記1~4, 5~8と同じ. 13週 漢文 唐詩 春晩 21. ~4. ~7. ~8. ~8. ~8. ~8. ~8. ~8. ~8. ~8. ~8. ~8			1週		上記1~4, 12~15と同じ.
3rdQ 4週			2週	小説 富嶽百景(太宰治)②	上記1~4, 12~15と同じ.
5週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤			3週	小説 富嶽百景(太宰治)③	上記1~4, 12~15と同じ.
5週 小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤		3rdO	4週	小説 富嶽百景(太宰治)④	上記1~4, 12~15と同じ.
大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田			5週	小説 富嶽百景 (太宰治) ⑤	上記1~4, 12~15と同じ.
後期 後期中間試験の反省			6週	古文 奥の細道 平泉①	上記1~4, 9~11と同じ.
後期中間試験の反省 上記1~4,5~8と同じ. 10週 評論 白(原研哉)① 上記1~4,5~8と同じ. 11週 評論 白(原研哉)③ 上記1~4,5~8と同じ. 11週 評論 白(原研哉)④ 上記1~4,5~8と同じ. 12週 評論 白(原研哉)④ 上記1~4,5~8と同じ. 上記1~4と同じ. 20. 漢文の句法や漢詩の形式の学習内容について理解している. 21. それぞれの漢詩作品を適切な現代語に訳し,作者の心情について理解している. 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解している. 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解している. 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解している. 23. 上記1~4,20~22と同じ. 漢文 唐詩 春望 上記1~4,20~22と同じ. 上記1~4,20~22と同じ.			7週	古文 奥の細道 平泉②	上記1~4,9~11と同じ.
接期			8週	後期中間試験	これまで学習した内容を説明することができる.
11週 評論 白 (原研哉) ③			9週		上記1~4,5~8と同じ.
12週 評論 白 (原研哉) ④	後期		10週	評論 白 (原研哉) ②	上記1~4,5~8と同じ.
### 4thQ 13週			11週	評論 白(原研哉)③	上記1~4,5~8と同じ.
4thQ 13週 漢文 唐詩 春暁 20. 漢文の句法や漢詩の形式の学習内容について理解している。 21. それぞれの漢詩作品を適切な現代語に訳し,作者の心情について理解している。 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解している。 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解している。 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解している。 23. 年記1~4,20~22と同じ。			12週	評論 白(原研哉)④	上記1~4,5~8と同じ.
漢文		4thQ	13週	漢文 唐詩 春暁	20. 漢文の句法や漢詩の形式の学習内容について理解している。 21. それぞれの漢詩作品を適切な現代語に訳し,作者の心情について理解している。 22. それぞれの漢詩作品の文学史的価値を理解してい
15週 漢文 唐詩 春望 年間授業のまとめ 上記1~4, 20~22と同じ.			14週	漢文 唐詩 送元二使安西	上記1~4, 20~22と同じ.
16週			15週		
			16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
		国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の 妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
	人文・社会 科学			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
基礎的能力				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わる ように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	

		相手の立場や考える や考えをまとめる	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思い や考えをまとめることができる。			
		新たな発想や他者の するための手法を	の視点の理解に努め、自分 実践できる。	分の思いや考えを整理	3	
評価割合						
	試験	課題・エッセイ	小テスト	ノート提出	合計	
総合評価割合	60	15	15	10	100	
配点	60	15	15	10	100	